



亀山市名誉市民

彫刻家
中村 晋也
Shinya Nakamura

作品紹介

ふるさとあい
Vol. 112

「愛うるはし ヤマトタケルノミコトとオトタチバナヒメ」

令和4(2022)年

本格的なモニュメントを制作する前には、ある程度のイメージを見える形に表したエスキース(試作)を作る場合があります。最終的な大きさが等身大よりも大きくなる予定の場合などは特にそうです。大きな芯棒や大量の粘土で何度もやり直すのはとても大変なことだからです。この小品は、亀山駅前に建立した『日本武尊 弟橘媛 愛うるはし』を制作する前に、ああでもないこうでもないで試行錯誤した作品です。後のモニュメントよりもちょっと可愛くなってしまいました。二人を愛でる気持ちがこぼれてしまったのかな?

この秋、銀座の展覧会で亀山市をPRしてくれるでしょう。そして、多くの人々が亀山駅前のモニュメントを見にきてくれたら、この上なく嬉しいです。



(高さ)49.1cm × (幅)33cm × (奥行)32.8cm
中村晋也美術館

特別協力 公益財団法人 中村晋也美術館

<https://www.ne.jp/asahi/musee/nakamura/>



農業を通して、亀山の田園風景を守りたい

みずち
蔵城 劉さん
(関町木崎)



令和7年3月、四日市農芸高校農業科学科食料生産コースを卒業。高校3年生の時、「第52回毎日農業記録賞(毎日新聞社主催)」に応募し、農業を志したきっかけなどをつづった作文で入賞(高校生部門)。現在、三重県農業大学校養成科(2年課程)の水田作コースで、日々実習を重ねる。休日に参加するドッジボールでは、ブロック大会まで審判できるB級審判員(日本ドッジボール協会)へのステップアップを目指す。

祖母の家庭菜園や近所の田の管理を手伝う中で、「農業は楽しい」という気持ちが芽生え、小学5年生の時に就農を、6年生で農業を学べる四日市農芸高校への進学を決意。「外で動くことやコンバインなどの機械が好きで、自然に農業にひかれました」と話されます。

高校では、農作物栽培の知識や技術を身に付けたほか、クラスメイトと廃ウール(羊毛)を肥料に使った「環境にやさしいかぶせ茶」を企業と共同研究。高校卒業時、実践がメインの三重県農業大学校への進学を選択し、現在は、米・麦・大豆作りの知識も習得中。「稲作は、田おこし、肥料まき、田植え、稲刈りなど一年を通して忙しく、暑い時期は大変ですが、すごく楽しい。今後は、農業の労働時間の削減と水の使用を抑えた米づくりなど環境負荷の軽減の研究も行い、持続可能で環境にやさしい農業を目指したい」と話します。

週末は、スポーツ少年団のドッジボールに審判員として参加するほか、関の山車保存会の活動に参加。また、今年4月からは、同世代の若者と交流を深めたいと、「かめやま若者未来会議」のメンバーとして、地域活動やまちづくりにも積極的に参画しています。

「耕作放棄地に次々とソーラーパネルが設置される現状を見ていると、非常に残念。一年中、作物を作ることで、耕作放棄地を減らし、観光客に楽しんでもらえる風景を守り、農業で地域を活性化させていきたい」と蔵城さん。志高い若者のチャレンジが始まっています。

